

認知症の人と家族のために、 知っておきたいこと

ご本人にも自覚があることを知ってください

自分がこれまでとは違うことに、最初に気づくのは本人です。物忘れによる失敗が増えたりすることで、「おかしい」と感じ始めます。認知症かもしれない、という不安は、大変辛いものです。

その不安が「病院には行かない」「私はもの忘れなんかしていない」という言動など、色々な形になって現れ、周囲の方々が困惑することも珍しくありません。

さりげなく、自然に、手助けをお願いします

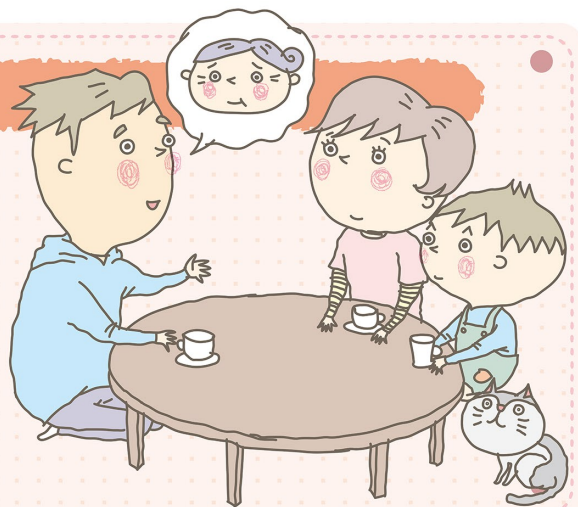
認知症の人にも、色々な感情があり、ご本人なりの暮らしがあります。認知症によって困っていることがあれば、できないこと、わからないことをさりげなく手助けしてください。押しつけず、急がさず、その人のペースで。

家族への支援が必要です

大切な身内が認知症であることを、家族として受け入れることは辛いことであると同時に、家族の中だけで解決できる問題ではありません。

家族が様々な葛藤の中で認知症と向き合い、認知症の人を支えていくためには、家族に対しても周囲の理解や支援が必要です。

息抜きや愚痴を言い合える場所、認知症をオープンにし支援を求められる環境も、家族には大切です。



認知症サポーターを地域で増やしましょう

認知症サポーター養成講座を受講した方を「認知症サポーター」と呼びます。

講座を通じて、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく支援するのが認知症サポーターの役割です。

具体的な例としては、ここで学んだ知識を友人や家族・地域へ伝えていく、商店・交通機関・働く場所などで出会った認知症の人を理解し接する、などがあります。詳しくは市高齢介護課までお問い合わせください。



認知症サポーター養成講座を受講した「認知症サポーター」には、しるしとしてオレンジリングをお渡ししています。